

# 第10回自己炎症疾患研究会のお知らせ

平成29年2月4日(土) 13時30分 - 17時30分

場所：フクラシア東京ステーション会議室 D (6階) (東京駅近く)

入場無料

自己炎症疾患研究会は、平成19年度日本炎症・再生医学会の最終日に第1回が開催されて以来、平成24年度からは厚労省班会議とタイアップしつつ、スポンサーのない持ち寄りの会として発展、今回で第10回という節目を迎えました。これまで支えていただいた先生方に感謝いたします。

最初の会で申し上げた本研究会の目的は、次のとおりです。「本研究会は、内科・小児科・皮膚科などの臨床家と基礎医学の研究者を中心に、本邦における自己炎症疾患の疫学、臨床像、定義、病因、治療法などを検討することを目的とする。自己炎症疾患を疑った場合、どのようなプロセスで診断、鑑別、治療するのか、ガイドラインを作成するとともに、本邦の自己炎症疾患の現状を把握し、迅速な診断と的確な治療が行えるように、研究会で議論する。そして、最終的には、それらの情報が自己炎症疾患患者へ還元できることを最大の目的とする。」

平成21年から疾患ごとに、厚労省難治性疾患克服研究事業で本邦の疫学調査が行われ、各自己炎症疾患の実態が把握されました。さらに、平成24年からの厚労省研究班“自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立”(平家班)によって、診療ガイドラインが作成され、診断と治療の標準化が整備されました。このような流れの中で、本研究会も発展したように思います。

今回は、自己炎症疾患の病態に大きく関わっている自然免疫について、その大家であられる審良静男先生にご講演を賜ります。また、レビュートークでは、3つの新規自己炎症疾患とカナキヌマブの適応拡大について、ご講演をお願いしています。どうか、奮ってご参加のほど、よろしくお願い申し上げます。

症例提示をご希望の先生は、平成29年1月22日までに下記までメールでご連絡ください。

メールアドレス：ida@med.kurume-u.ac.jp (久留米大学第1内科 井田弘明)

rnishiko@kuhp.kyoto-u.ac.jp (京都大学小児科 西小森隆太)

## 研究会プログラム

- 13:30-13:35 開会の挨拶 井田・西小森
- 13:35-13:55 レビュートーク1 京都大学小児科 井澤和司先生  
NLRC4 異常症
- 13:55-14:15 レビュートーク2 岐阜大学小児科 大西秀典先生  
A20 ハプロ不全症 (家族性ベーチェット症候群)
- 14:15-14:35 レビュートーク3 東北大学小児科 笹原洋二先生  
ADA2欠損症
- 14:35-14:55 レビュートーク4 九州大学小児科 高田英俊先生  
カナキヌマブの遺伝性周期性発熱症候群に対する適応拡大について
- 14:55-15:10 休憩
- 15:10-16:10 特別講演 大阪大学 WPI 免疫学フロンティア研究センター 拠点長  
大阪大学微生物病研究所生体防御研究部門自然免疫学分野教授  
審良静男先生  
TBA
- 16:10-16:20 休憩
- 16:20-16:50 症例報告  
TBA
- 16:50-17:20 症例検討会  
TBA
- 17:20-17:30 今後の会のあり方について・閉会の挨拶 井田・西小森

